

## 令和6年度第2回志布志市まちづくり委員会 会議録

日付：令和6年12月16日(月)

時間：14時開会

場所：志布志市役所本庁1階会議室

【開 会】 総合政策課広報・地域政策グループ 徳重サブリーダー 進行（14:00～）  
志布志市まちづくり委員会条例第6条第3項の規定により、委員の過半数25名の出席で会議が成立。

【課長挨拶】 総合政策課長あいさつ

皆様こんにちは、総合政策課長の川上でございます。

本日は、令和6年度第2回まちづくり委員会の開催を御案内いたしましたところ、皆様それぞれ年末のお忙しい中、多数御参加いただき誠にありがとうございます。

今回の委員会では「第2次志布志市教育振興基本計画後期基本計画」について、御意見をお伺いさせていただきます。

委員の皆様には、まちづくり委員会の目的を念頭に置いていただきながら、それぞれの立場で、忌憚のない御意見をいただきますようお願いしまして、私の挨拶にかえさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

【協 議】 議事進行：村中会長

(1) 第2次志布志市教育振興基本計画後期基本計画

・教育総務課より説明

今年度に志布志市教育振興基本計画の前期基本計画の最終年度を迎えるにあたって、これまでの成果や課題を検証し、国の新たな教育振興基本計画及び第4期鹿児島県教育振興基本計画を参酌し、令和7年度から5年間の後期基本計画を策定する。

計画の対象とする分野は、学校教育、社会教育、スポーツ、文化財などの教育委員会所管事項に関することである。

第2章 本市の教育を取り巻く環境

1. これまでの取組の成果

前期基本計画期間における数値目標のうち、奨学金返還金徴収率など15項目については目標を達成しているが、全国学力学習、学習状況調査における平均正答率などの23項目については、目標を達成することができていないため、全体の達成率が39.5%となっている。

前期で達成できなかった原因を明らかにし、後期基本計画で達成を目指して取り組む必要がある。

2. 社会状況

(1) 人口減少や少子高齢化の進行など8項目について記載している。

### 3. 本市の子供たちを取り巻く現状と課題

(1) 児童生徒数の減少と学校規模など12項目について記載している。

### 第3章 10年後を見据えた志布志の教育の姿

煮しめのおしえ（個性の伸長）、つけあげのおしえ（確かな変容）、にぎりめしのおしえ（感謝の心）、きらり輝く三つのおしえを身に付ける「志」の教育として、学校における知育・徳育・体育・食育の充実に努めるとともに、志を高く掲げ、学ぶ意欲にあふれる子供の育成から市民づくりへと発展させることを基本理念として、教育行政の中核として取り組んできており、未永く継承していくこととしている。

夢や希望を実現し、ともに未来を作る、心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまちづくりを基本目標とし、志あふれる未来の社会の創り手となる人間の育成、志を持って意欲的に自己実現を目指す人間の育成を目指すこととしている。

### 第4章 今後5年間に取り組む施策

1 本市教育の取り組みにおける視点として、(1) 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重など6項目を記載している。

2 本市教育施策の方向性について、(1) お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進など5項目を記載している。

3 具体的な施策の展開として、Ⅰ－(1) 豊かな心の育成以下具体的な取組を記載しているが、教育総務課に関するものを説明する。

Ⅲ－(4) 小・中学校の在り方について、児童生徒数の減少、松山地域の学校の在り方検討の要望書、伊崎田学園を施設一体型の小中一貫校とすることについて現状と課題、これからの施策の方向性、主な取組を掲げている。

Ⅲ－(10) 安全な学校給食の推進として、現状と課題に食品ロス削減に取り組むことを新たに加えて、児童生徒が主体的に食に関わる意識を育むとともに、魅力ある学校給食づくり、情報発信、イベント食や行事食などを工夫し、わくわくするような献立づくりに取り組むことを加えている。数値目標として、現状10%の食品ロスを、今後5年間で半分に減らす目標としている。

第5章 重点プロジェクトとして、子供たちにとってのより良い学びの場プロジェクトとして、教育総務課では、3つの取組を掲げている。令和12年度に児童数が1学年20人程度を下回る見込みの小学校について、保護者、地域等での議論に向けての意識醸成、松山地域の学校の在り方検討委員会における協議、伊崎田学園の令和8年度から施設一体型の小中一貫校と指導としての実践的研究を掲げている。

・学校教育課より説明

第4章 今後5年間に取り組む施策について、主な二点について説明する。

Ⅰ－(1) 豊かな心の育成について、いじめや暴力行為等問題行動、これらには、学校家

庭地域、関係機関等が連携して対応することが必要であること、いじめは小中合わせて371件、不登校児童生徒が74名となっている現状を踏まえ、不登校児童生徒一人一人の状態実態に応じた支援を行っていくこと、未然防止と適切な即時対応に努めること、SOSの出し方に関する教育を推進していくこと、情報モラル教育の充実を図ることについて、現状と課題、これからの施策の方向性、主な取組を掲げている。

Ⅲ－(1) 「確かな学力」の育成について、基礎的基本的な知識及び技能の習得、思考力判断力、表現力の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立等を図る教育を展開する必要があること、小学6年生、中学校3年生共に、平均通過率は全国と差が広がる状況であること、主体性、協働性、総合性といった資質・能力を育成する授業改善が急務であることの現状と課題、これからの施策の方向性、主な取組を掲げている。

第5章 重点プロジェクトとして、学力向上対策プロジェクトを掲げている。志布志市の事業モデルや、学力向上推進プランを浸透させるとともに、学びを支援する体制づくりについても推進していくこととし、具体的な取組として、管理職の意識改革と実行力を高めるための方策、教師の指導力を高めるための方策、家庭や地域との連携を強化するための方策を掲げている。

また、学びの多様化プロジェクトも学校教育課から掲げている。市教育センターでは、学びの多様化教室松風を設置して、不登校の児童生徒の対応をしているが、現在12人の児童生徒が通所しており、年々増加傾向になってきている。これらを踏まえて、登校に関するアンケート、先進校視察の実施等の具体的な取組を実施していく。

・生涯学習課より説明

第4章 今後5年間に取り組む施策について、主な二点について説明する

Ⅳ－(1) 地域を支える次世代の人づくりとして、地域の中での交流体験により資質が育まれ、地域や子供が生活し成長する場として重要な役割を担っていること、郷土に誇りを持ち、心身ともにたくましい子供を地域ぐるみで育成すること、本市の土曜体験広場などの青少年関係団体の活動など現状と課題、これからの施策の方向性、主な取組を掲げている。

Ⅳ－(3) 家庭教育支援の充実として、家庭の状況を取り巻く環境が変化していく中での子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうこと、家庭の教育力の低下への対応として、各家庭の自主性を尊重しつつ、家庭の教育力を高める支援を進めることについての現状と課題、これからの施策の方向性、主な取組を掲げている。

第5章 重点プロジェクトとして、志布志東部地区古民家再生プロジェクトを生涯学習課で掲げている。志布志東部地区の歴史的建造物を古民家再生事業者が経営することにより、ひとの流れを生み出す新たな取組として古民家再生を行う。具体的な取組として、歴史的資源の保存、回遊性の高い空間と人々の交流の場の形成、地域住民や他の行政分野との連携の推進を掲げている。

(質疑応答)

- Q 1 11ページの第2章2-(5) 地球規模での環境問題について、本市は令和3年3月に志布志市生物多様性地域戦略を策定しており、今後5年間で取り組む施策にも生物多様性が出てくるので、生物多様性の保全という記述があってもよいと思うがいかがか。
- A 1 生物多様性に関する知見が不足している部分もあるので、環境政策担当課と連携を図り、記載を追加したい。
- Q 2 今後5年間で取り組む施策に伊崎田学園を施設一体型の小中一貫校とする記載があるため、23ページの第2章3-(6) 特別支援教育についても、伊崎田学園のことを記述してよいと思うがいかがか。
- A 2 教育行政としても、特別支援学校関連は主要な施策に該当するため、記述を加えるように検討していく。
- Q 3 教育は、行政と教育委員会、教育環境と、生徒とそして先生というバランスがあって成り立つものだと思うが、教員のメンタルヘルスの方は大丈夫なのか。
- A 3 本市でも教員の業務改善は最重要課題としている。特別支援教育支援員を23人配置し、全校ではないが教員へのサポートを行っている。また、学校教育専門官を今年度1人増員し、授業づくりや、保護者、教員等の相談にも乗ってもらうこととしている。
- Q 4 前期基本計画の数値目標達成状況について、達成項目が15項目、39.5%となっているが、前期と同じような内容で、今後の後期の目標が達成されるような内容なのか。
- A 4 前期基本計画の結果、達成状況等を踏まえて、各達成項目は現状を踏まえた現実的な数字に揃えているところである。
- Q 5 生涯学習講座の受講者数が目標未達成だが、大人も子供も含めた人数なのか。
- A 5 大人も子供も含んだ人数である。新型コロナウイルス感染症の制限は緩和されたものの、コロナ禍前の人数には至っていない現状である。
- Q 6 部活動の地域移行を推進するとなっているが、これから取り組むということか。
- A 6 部活動の地域移行を数年前から協議しており、本市には全中学校で27の部活動があるが、全てに対応するのは困難である。本市でもできるだけ早く対応できるようにしていきたい。

## 令和6年度第2回志布志市まちづくり委員会 会議録

- Q 7 教員が部活動を抱えることで残業が多いというニュースもあるので、メンタルヘルスチェックを実施して、教員が健康に働けるように努めてほしい。
- A 7 実際にやったこともない部活動を受け持つ教員がいるのが現実である。メンタルヘルスチェックを実施して、個人に結果が返され、校長に学校の状況は返されるので、教育委員会としてもサポートしていきたい。
- Q 8 松山地区については、地域から要望書が出されて在り方を検討していくと記載されているが、ほかの地域でも複式学級が増えてきている現状の中で、松山地域だけを進めてよいものなのか。
- A 8 教育委員会としては、地域から要望があったので、先行して協議を進めていきたいと考えている。ほかの地域でも、令和7年度以降、教育委員会から声掛けをしていきたいと考えている。
- Q 9 特別支援学校の生徒と地域の関りはあるのか。
- A 9 小中学校が隣接しているので、そこで交流の場を持ったり、地域の方が気軽に参加できるような場を持ったりなど、特別支援学校は県立なので、県に要望を挙げたいと考えている。

【そ の 他】  
特になし。

【閉 会】 （～15:00）